

●病害虫の発生に注意

いもち病の発生が心配されます

高温多湿の天候はいもち病の発生が心配されます。いもち病の発生を確認したら直ちに予防、治療剤を散布し、お近くの営農センターへ連絡していただくようお願いします。

また、穂いもち対策としてコラトップ粒剤を散布しましょう。

いもち病防除剤

農薬名	倍率	散布量	使用時期	使用回数	備考
ブラシン粉剤	-	3~4kg/10a	収穫7日前まで	2回以内	
ノンプラス粉剤			収穫7日前まで	2回以内	
ブラシフロアブル	1,000倍	60~150ℓ/10a	収穫7日前まで	2回以内	
ノンプラスフロアブル			収穫7日前まで	2回以内	
コラトップ粒剤	-	3~4kg/10a	出穂30~5日前まで	2回以内	

紋枯病にも注意が必要です

ここ数年紋枯病の発生が目立つようになってきており、昨年は病害虫防除所より対策情報が出されました。畦畔際を見まわし、発病が見られた場合は防除を行いましょう。

紋枯病防除剤

農薬名	倍率	散布量	使用時期	使用回数	備考
モンカットファイン粉剤	-	3~4kg/10a	収穫14日前まで	3回以内	
モンカットフロアブル	2,000倍	60~150ℓ/10a	収穫14日前まで	3回以内	
モンガリット粒剤	-	3~4kg/10a	収穫45日前まで	2回以内	

●斑点米カメムシ類は圃場内の雑草防除と畦畔の除草の徹底で防ぎます

斑点米カメムシ類はノビエやホタルイが好物です。これらが残草している圃場はカメムシの巣窟となってしまいます。また、農道畦畔の雑草も併せて草刈りや畦畔除草剤の散布を行い、住処となる雑草の無い圃場を目指しましょう。

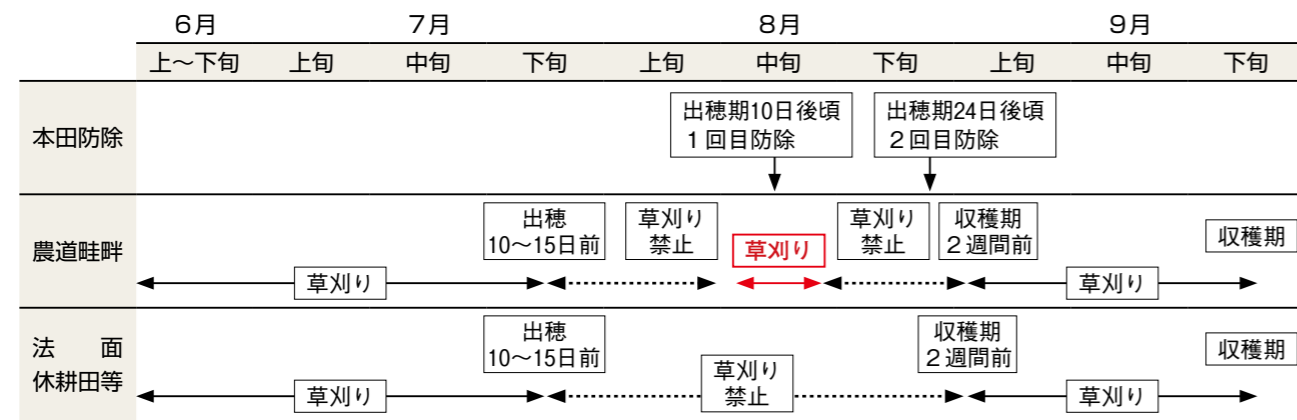
農道、畦畔の草刈りは出穂10~15日までに数回行います。

☆おばこ一斉草刈りデーは7月20日~26日です☆

【ポイント】

出穂期10日後頃の茎葉散布剤の散布後、5日以内に農道を含む畦畔の草刈りを行います。その後草刈りをする場合は、収穫2週間前以降に行います。

参考：本田防除と水田周辺の草刈り時期



畦畔除草剤

農薬名	薬液量(10aあたり)	希釈水量(10aあたり)	使用時期	使用回数	備考
バスタ液剤	500~1000ml	100~150ℓ	収穫14日前まで	2回以内	バスタ、ザクサと合計2回まで
ザクサ液剤	500~1000ml	100~150ℓ	収穫7日前まで	2回以内	
ラウンドアップマックスロード	200~500ml	50~100ℓ	収穫前日まで	3回以内	
グラスショート液剤	300~500ml	50~100ℓ	収穫前日まで	3回以内	

※いづれの剤もイネにかかると薬害を生じますので散布の際は飛散防止カバー等を使用し十分に注意して散布しましょう。



安心のネットワーク
NOSAI仙北

No.4

農業技術情報

平成28年6月発行

監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課



JA秋田県

適切な水管理で茎数確保 ~気象変動に対応した栽培管理を~

今年度は4月中旬より最高気温の高い日が続きましたが、ハウス内の温度が適切に管理されたことで高温による出芽不良やムレ苗、もみ枯れ細菌病などの被害は少なくなりました。

田植始期以降も天候の良い日が続き苗の活着もよく順調に生育しています。しかし、5月下旬になると気温が急激に上がり、終期に田植えを行った圃場では高温により、土壌の還元状態が進み、活着不良が心配されます。

6月10日現在の巡回の際、圃場内に余り苗が散見されました。余り苗は放置するといもち病菌の伝染源となるので、直ちに泥に埋めて処分してください。

●水稻定点調査結果(仙北地域振興局農業振興普及課より)

6月10日現在の「あきたこまち」の生育は、草丈は24.8cmで平年並(平年比102%)、茎数は152本/m²でやや多く(平年比107%)、葉数は平年並の5.8葉(平年差0.0葉)でした。

定点ほの田植え日の平均は5月21日と平年並でした。

5月5半月以降、気温の高い日が続いており、茎数はやや多くなっていますが、田植え時期による圃場間差が大きくなっています。各圃場の生育状況を再確認し、適切な管理に努めて下さい。

平成28年度 作業進捗状況

	始 期 (5%)			盛 期 (50%)			終 期 (95%)		
	本 年	平年差	前年差	本 年	平年差	前年差	本 年	平年差	前年差
播 種	4月19日	±0日	遅1日	4月24日	早1日	遅1日	4月30日	±0日	遅1日
耕 起	4月30日	±0日	遅4日	5月5日	早1日	遅2日	5月12日	早1日	遅2日
田 植	5月15日	早2日	早2日	5月22日	早2日	早1日	5月29日	早1日	早1日

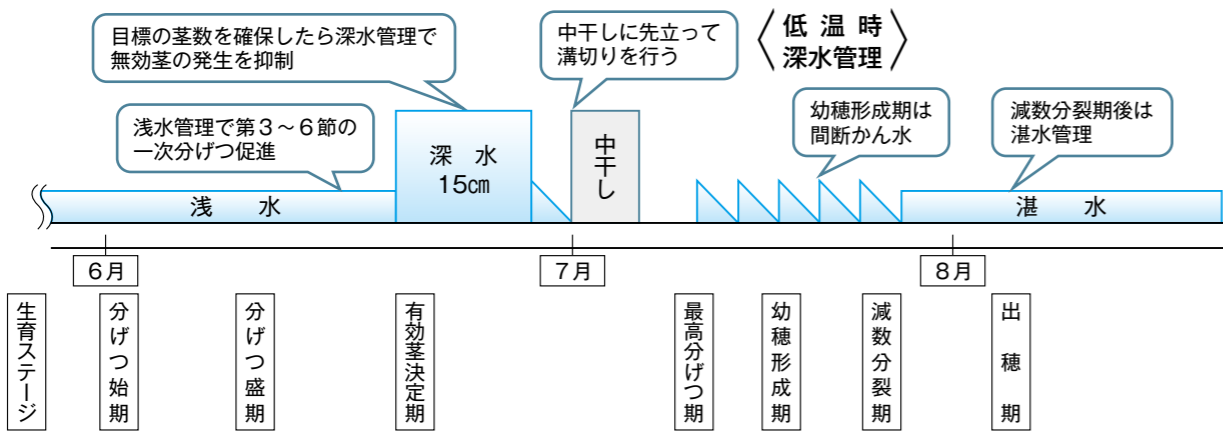
●水田内に雑草が残った場合は中・後期除草剤で徹底防除

今年は気温の高い日が続いたため、雑草の生育が早まりました。また、カナの発生により一発剤の散布が遅れるなどして雑草が残ってしまった圃場が多くあります。雑草が繁茂すると、稲の生育不良や斑点米カメムシ類のすみかとなってしまうため、残草してしまった圃場では中・後期剤を使用し防除しましょう。

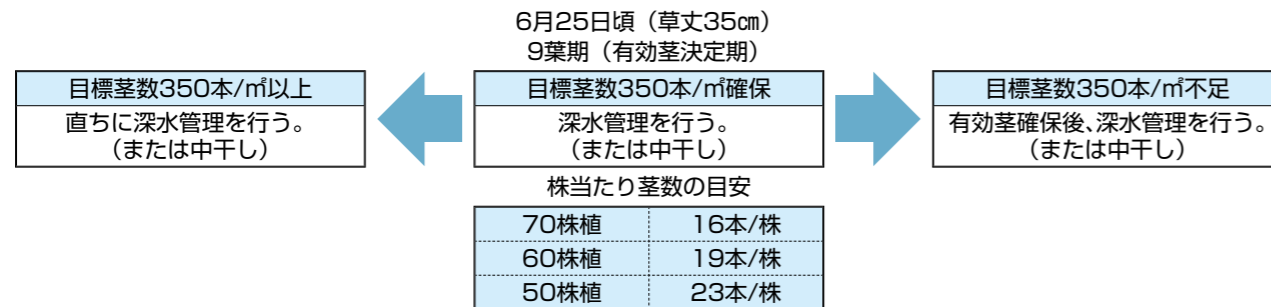
剤系	薬 剤 名	使用量 希 積 水 量	本剤使用回数	使用時期 使 用 方 法
ヒエ剤	クリンチャー1 [※] 粒剤	1kg/10a	2回以内	移植後7日~ノビエ4葉期 但し、収穫30日前まで 湛水散布
		1.5kg/10a		移植後25日~ノビエ5葉期 但し、収穫30日前まで 湛水散布
	クリンチャーEW	100ml/10a 25~100ℓ	2回以内	移植後20日~ノビエ6葉期 但し、収穫30日前まで 落水散布(展着剤加用)
広葉剤	ヒエクリーン1 [※] 粒剤・豆つぶ250	1kg/10a(粒) 250g/10a(豆つぶ)	1回	移植後15日~ノビエ4葉期 但し、収穫45日まで 湛水散布 効果は遅効的、残効あり
	バサグラン粒剤	3kg/10a	1回	移植後15日~55日 但し収穫60日前まで 落水又は浅水状態で散布 ※スポット処理可能
ヒエ・広葉混合剤	バサグラン液剤	500~700ml/10a 70~100ℓ	2回以内	移植後15日~55日 但し収穫50日前まで 落水又は浅水状態で散布 ※スポット処理可能
	クリンチャーバスME液剤	1000ml/10a 70~100ℓ	2回以内	移植後15~ノビエ5葉期 但し、収穫50日前まで 落水散布又は浅水状態で散布 ※スポット処理可能
	ヒエクリーンバサグラン粒剤	3kg/10a	1回	移植後15日~ノビエ4葉期 但し、収穫60日前まで 浅水状態で散布
	アトトリ1 [※] 粒剤	1kg/10a	1回	移植後20日(イネ5葉期以降)~ノビエ4葉期 但し収穫45日前まで 湛水散布 効果は遅効的
ヒエ・広葉混合剤	フォローアップ1 [※] 粒剤	1kg/10a	1回	移植後15日~ノビエ5葉期 但し、収穫60日前まで 湛水散布 効果は遅効的
	ワイドアタックSC	100ml/10a 100ℓ	2回以内	移植後20日~ノビエ5葉期 但し収穫30日前まで 落水又は浅水状態で散布 効果は遅効的

※有効成分ごとの使用回数は農業ラベル等で確認ください。

●適切な水管理で有効茎歩合の高い丈夫なイネに育てましょう



- ・ 6月は浅水管理とし、水温と地温を高め日気温格差を大きくし、有効茎となる第3～6節の一次分げつの発生を旺盛にします。早期に茎数を確保するよう努めます。かん水は水温の低い早朝に短時間で行います。
- ・ 低水温地帯では温水田、迂回路、ポリチューブ等を用いて積極的に水温上昇に努めます。
- ・ 浅水期間中の低温や強風時にはかん水しない程度（5～6cm）の深水にしてイネを保護します。
- ・ 有効茎決定期（6月下旬）に、目標の茎数（下記図）を確保したら、深水管理・中干しを実施します（7日～10日間）。



●中干しと溝切の実施

中干しの効果と方法（稲体を作る **栄養生長** から穂を作る **生殖生長** への切換）

- 1) この時期に落水することにより無効分げつを抑え、茎数過多防止や葉を立て受光体勢を改善し、光が株内によく入るようにします。また、下位節間の伸長を抑え、倒伏しにくい稲に仕上げます。
- 2) 土壌中に酸素を供給し、還元状態で生成される有害成分（硫化水素等）を無毒化して、新たな根の伸長を促進し、後半まで活力を維持させます。
- 3) 機械作業に適した土壌硬度を確保します。この時期に一度しっかり干すことで、収穫直前の落水でも容易に田面が硬くなり、刈取作業がスムーズに行えます。
- 4) 中干しの実施期間は7～10日程度とし幼穂形成期前には終了します。中干しの程度は田面に1～2cm程度の亀裂が入り足跡がつく程度とします。中干しを強くしすぎると根が切れ、生育に悪影響を及ぼすため注意が必要です。
- 5) 中干し終了後は間断かん水とし、土壌を酸化的な条件に保ち根の伸長を促進させ、イネを健康な状態で栄養生長から生殖生長に切換えます。

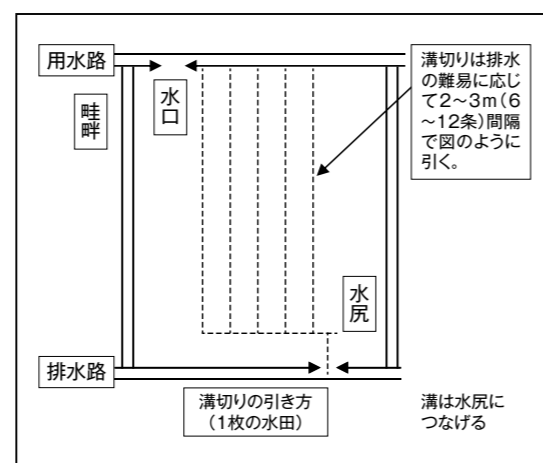
溝切は必ず実施しましょう（1本1斗の増収が期待されます）

溝切を行うと水の回りが早くなるため、より確実な水管理を行なうことができます。

また、排水も素早く行うことができ、中干の効果が高まります。登熟後半まで水を張ることができるため、根の活力が維持され、登熟歩合の向上につながります。

溝切は中干し開始2～3日後の田面がやや軟らかい状態で行います。溝切り機が歩行型の場合は落水状態で行い、乗用型は少し水を張った状態で行うと作業がはかどります。また溝の交差した部分と水尻は必ずつなぎます。

排水不良田や田面に高低差がある圃場では溝切は必ず行いましょう。



●今年は高温多湿・小照が予想されています!!

気象庁から発表された長期予報によると今年の夏は高温で雨の日が多く、多湿・日照不足になると予想されており、イネの軟弱化といもち病の発生が心配されています。

●ケイ酸質肥料を施用しましょう

稲はチッソ、リン酸、カリ以外にもケイ酸や苦土なども土壌から吸収しています。特にケイ酸を施用することにより稲体が丈夫になり葉が直立し受光体勢がよくなります。このため、少照時でも効率的に太陽光を吸収することができます。

稲体が丈夫になることにより、いもち病をはじめ病害に負けにくくなります。

また、高温時にも葉温の上昇を防ぎ登熟を促進させ、白未熟粒の発生を防ぎます。土壌改良資材として散布していない方は必ず施用しましょう。

中間追肥

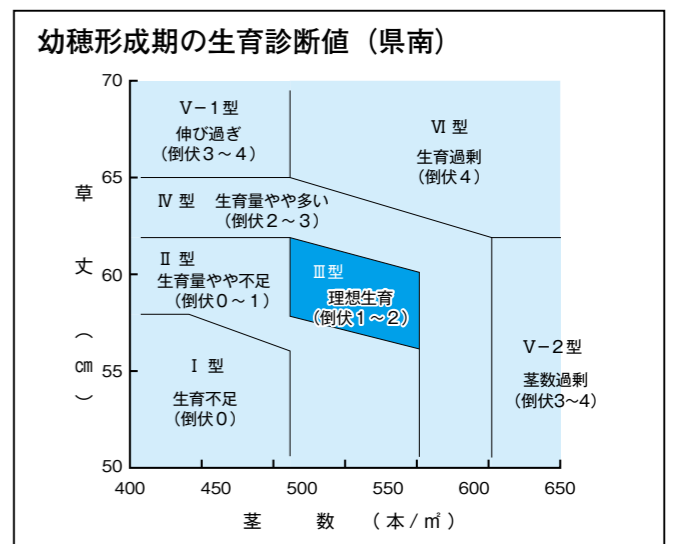
肥料名	施肥量(kg/10a)	施用時期	施用効果
おばこロマン大地	20～40kg	6月下旬～ 幼穂形成期まで	①倒伏抵抗性が高まる ②根の活力向上 ③有効茎歩合の向上 ④登熟歩合の向上 ⑤食味の向上 ⑥病害虫被害の軽減
けい酸加里20kg	20kg		
PK40号			

●生育状態を把握し、適切な穂肥を行います。

不安定な天候のなかでも、順調に登熟させるには、生育状況を把握し適切な穂肥を行うことが大切です。幼穂形成期（7月15日頃）に生育・栄養診断を行い、生育状況や気象予報に応じた穂肥の判断をしましょう。

時期別理想生育量（品種：あきたこまち）

項目	時期	最高分げつ期	幼穂形成期	減数分裂期
		7月5日	7月15日	7月25日
草丈 (cm)	上限	52	65	75
	理想	48	60	70
	下限	45	55	65
茎数 (本/m²)	上限	580	560	500
	理想	540	520	470
	下限	500	480	420
葉数	理想	9.8	11.0	12.5
		10.5	11.5	13.0
葉色 (SPAD値)	上限	46	44	40
	理想	44	42	38
	下限	42	40	35



○幼穂形成期（出穂25日前頃）の草丈（cm）×茎数（本/m²）と幼穂伸長期間の気象予報からの診断

幼穂形成期の生育量	幼穂伸長期間の気象予報別の追肥対応		
	低温・少照・多雨	平年並	高温・多照・少雨
27,000未満	幼形期・減分期 窒素 2kgづつ2回	幼形期・減分期 窒素 2kgづつ2回	幼形期・減分期 窒素 2kgづつ2回
27,000以上 30,000未満	幼形期…ムラ直し 減分期…窒素1.5kg	幼形期・減分期 2回で合計3kg以内	幼形期・減分期 2回で合計3kg以内
30,000以上 34,000未満	幼形期…なし 減分期…ムラ直し	幼形期…ムラ直し 減分期…窒素1.5kg	幼形期…ムラ直し 減分期…窒素1.5kg
34,000以上	なし	なし	なし

※上記表は目安です。詳しくは各営農センターへご相談ください。

追肥専用肥料

肥料名	施肥量(kg/10a)	施用時期	備考
おばこロマンみのり	7～13kg	出穂前15日	硫安系 15-4-15 有機20%入り
おばこロマンめぐみ			塩安系 15-4-15 有機20%入り